

6月



撮影：2018年8月（群馬県 桐生市 桐生川）

あの日のあの川 リレー日記 ～第44話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第44話主人公 近藤哲太

（筑波大学 社会国際学群 国際総合学類 白川（直）研究室『川と人』ゼミ）

（□川ガール・■川系男子）

（出身地を流れる川：群馬県桐生川）

「川とふれあう喜び」

いつのこと？：小・中学校

どこの川？：桐生川

群馬県は三方を山々に囲われており中央に縦断するように利根川が流れ、関東平野へと注いでいます。私は群馬県の東端に位置する桐生市で生まれ育ち、渡良瀬川やその支流である桐生川と親しみながら生活していました。

中学校のころ、野球部に所属していた私は中学校沿いを流れる桐生川の歩道をランニングコースとして毎日利用していました。利用していた時間帯は登校前の午前7時ごろと部活動の午後5時ごろです。そうした時間帯には地域住民の方々を確認することができ、今思うと交流の場としての機能があると実感することができます。私自身、挨拶を交わす中にご近所の方に野菜を頂くことや、会話を通してかでのどのような人が周囲に住んでいるのか、ということを知っていました。河川沿いの景観や歩道としての機能は私が住む地域の生活において、お互いを認識しあう場所として身近な存在だったと感じます。

夏の思い出の中で印象に残っている場面があります。橋の上を通っていると下から呼び止められ、川をみると友人たちが泳いで遊んでいました。大きな岩によって流れが緩やかになり、水のたまった部分（深い）で夏になると泳いで遊ぶことができました。今思うと危険な一面もありますが、本当に楽しかったなあと時々思い出します。他にもザリガニやハヤを捕まえたり秘密基地を作ったりと、思っていたよりもたくさんの遊びをしていて、川は思い出の背景として今でも鮮明に残っています。



撮影：2018年8月（群馬県 桐生市）

私は大学生となり、茨城県つくば市に住んで4年目となります。自分の生活圏内には地元にあったような川はなく、悲しいことに人工的・殺風景という印象が続いています。帰省し時間があるときは川沿いを歩いたり、ドライブしたりして、つくば市にない景色を楽しんでいます。上の写真は県道66号線を北上し、梅田湖・桐生川ダム周辺です。道から川辺に降りる階段を下り冷たい水に触れることができます。川が存在し、川に親しめる地域の幸せを感じています。

（次号は8月号にて中村さんにバトンを託します）